

5. - 6) 検定結果 57×XSYC (RC×交雑種) コマーシャル (CM♂♀) 27年度

(1) 体重 (表3・4・5、図1参照)

体重は、12・18週齢を全羽数とし、18週齢までのその他の週齢を20%抽出(20羽)として測定した。

「57×XSYC」では、12週齢(84日齢)で♂3.4kg・♀2.6kg、その後、検定を継続した♀は18週齢(126日齢)で3.5kgという結果となった。また、20%抽出の10~14週齢での体重を考慮し、CMの出荷体重を2.8~3.0kgと想定した場合、♂で72~76日齢程度、♀で92~98日齢程度での出荷が見込まれる。

(表3) <57×XSYC♂> 「CM♂」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	84日	-	-	-
平均体重(g)	38	298	792	1,437	2,319	2,782	3,382	-	-	-
最大(g)	44	343	890	1,607	2,870	3,019	3,845	-	-	-
最小(g)	32	270	700	1,302	1,809	2,450	2,620	-	-	-
標準偏差(g)	3.5	18.8	50.5	89.6	252.5	154.5	240.6	-	-	-
変動係数	9.05	6.32	6.37	6.24	10.89	5.55	7.11	-	-	-
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	99	-	-	-

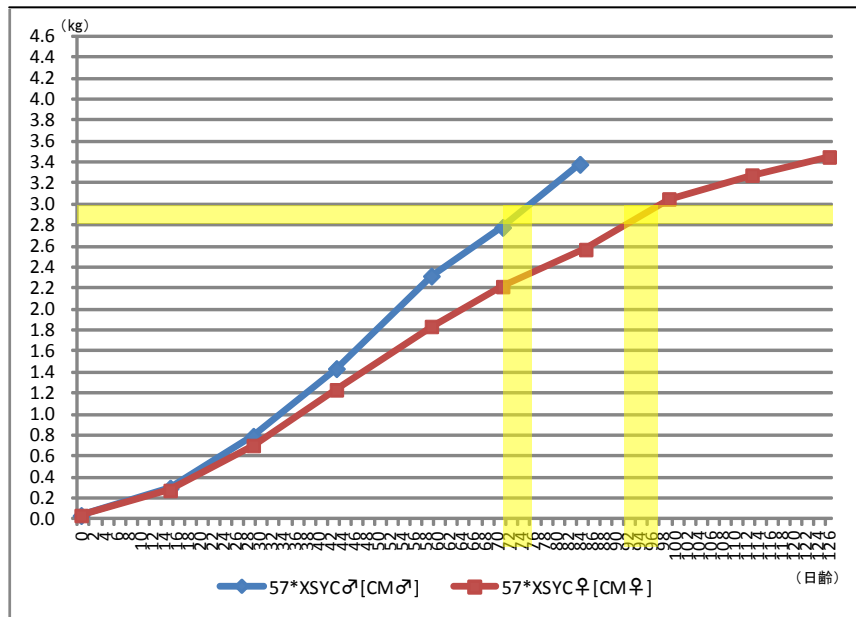
(表4) <57×XSYC♀> 「CM♀」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	85日	99日	113日	126日
平均体重(g)	39	277	705	1,235	1,839	2,219	2,571	3,053	3,280	3,453
最大(g)	44	316	789	1,556	2,235	2,490	3,185	3,545	3,675	4,285
最小(g)	34	229	614	1,020	1,510	1,950	2,095	2,675	2,875	2,588
標準偏差(g)	3.1	23.1	41.8	121.6	148.1	147.0	210.3	211.6	214.8	359.3
変動係数	7.91	8.36	5.93	9.84	8.06	6.63	8.18	6.93	6.55	10.41
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	96	20	20	95

※ 上記の表3・4における12・18週齢の全数測定において、発育不良等により極端に低い体重のものは、異常値として集計から除外した。

(単位:週、日、kg)

週齢	CM日齢	♂	♀
0	0	0.04	0.04
2	15	0.30	0.28
4	29	0.79	0.71
6	43	1.44	1.24
8	59	2.32	1.84
10	71	2.78	2.22
12	84-85	3.38	2.57
14	99		3.05
16	113		3.28
18	126		3.45



(表5・図1) <57×XSYC> ♂♀の平均体重の推移

※ 表5の青色部は全羽数、0~10, 14~16週齢は20%抽出。

※ 図1の黄色部はCM♂♀の見込出荷日齢・体重。

(2) 飼料要求率 (表6・7参照)

CMは不断給餌であり、飼料摂取時の餌溢しが著しく、へい死鶏・淘汰鶏の飼料給餌量も含めた算出とした。

このため、飼料要求率は0～12週齢で「57×XSYC」が♂3.1(給餌量:123g/日/羽)・♀3.5(同:106g/日/羽)となった。一方、18週齢まで検定継続となった組合せでは、0～18週齢で「57×XSYC」が♀4.3(同:118g/日/羽)となった。

(表6) CM♂♀の0～12週齢(0～84日齢)の飼料要求率

組合せ	性	期末羽数 (羽)	平均体重 (g)	増体量 (kg)	飼料給餌量		飼料 要求率
					(kg)	(g/日/羽)	
57×XSYC	♂	99	3,382	330.8	1,020	123	3.08
	♀	97	2,571	246.0	863	106	3.51

(表7) CM♂♀の0～18週齢(0～126日齢)の飼料要求率

組合せ	性	期末羽数 (羽)	平均体重 (g)	増体量 (kg)	飼料給餌量		飼料 要求率
					(kg)	(g/日/羽)	
57×XSYC	♀	95	3,453	324.0	1,408	118	4.34

(4) 羽色・外貌特徴

ア 0週齢時(羽色のみ(20%抽出)、図6参照)

羽色は、その組合せの中で多く占めている羽色タイプを順に、羽数をカウントすることとした。

「57×XSYC♂」は、羽色が3タイプあり、羽色タイプⅠ(黒色)が55%(20羽中11羽)、羽色タイプⅡ(白色)が40%(20羽中8羽)、羽色タイプⅢ(白色斑)が5%(20羽中1羽)を占めた。

「57×XSYC♀」は、羽色が3タイプあり、羽色タイプⅠ(黒色)が50%(20羽中10羽)、羽色タイプⅡ(淡褐色)が35%(20羽中7羽)、羽色タイプⅢ(褐色斑)が15%(20羽中3羽)を占めた。



(図6-1) <57×XSYC♂>「CM♂」の羽色



(図 6 - 2) <57×XSYC♀> 「CM♀」の羽色

イ 12週齢時 (CM♂、検定終了時全数：羽色・外貌特徴、図7参照)

CM「57×XSYC♂」は、羽色タイプⅠ(横斑)が40.4%(99羽中40羽)、羽色タイプⅡ(横斑一部白色)が37.4%(99羽中37羽)、羽色タイプⅢ(白色斑)が22.2%(99羽中22羽)を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型(コーチン型)、単冠、耳朶色は赤色、脚色は黄色(一部分に鉛色が混在)であった。

< 57×XSYC♂ > 「CM♂」

「羽色タイプⅠ」(通常色)

羽色：横斑
割合：40.4%(40羽/99羽)
体型：肉用種型(コーチン型)
冠：単冠(全羽数)
耳朵色：赤
脚色：黄(一部鉛色)



(図7-1) < 57×XSYC♂ > (CM♂) 羽色タイプⅠの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅡ」

羽色：横斑(一部白色)
割合：37.4%(37羽/99羽)
体型：肉用種型(コーチン型)
冠：単冠(全羽数)
耳朵色：赤
脚色：黄(一部鉛色)



(図7-2) < 57×XSYC♂ > (CM♂) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅢ」

羽色：白色斑
割合：22.2% (22羽/99羽)
体型：肉用種型(コーチン型)
冠：単冠(全羽数)
耳朵色：赤
脚色：黄



(図7-3) <57×XSYC♂> (CM♂) 羽色タイプⅢの羽色・外貌の特徴



(図7-4) <57×XSYC♂> (CM♂) の飼養状況

ウ 18 週齢時（CM♀、検定終了時全数：羽色・外貌特徴、図 8 参照）

CM「57×XSYC♀」は、羽色タイプⅠ（濃赤色）が 50.5%（95 羽中 48 羽）、羽色タイプⅡ（黒色（一部茶色））が 36.8%（95 羽中 35 羽）、羽色タイプⅢ（黒色）が 12.6%（95 羽中 12 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、単冠、耳朵色は赤色又は白色、脚色は黄色（一部分に褐色・黒色が混在）であった。

<57×XSYC♀>「CM♀」



（図 8 - 1） <57×XSYC♀>（CM♀）羽色タイプⅠの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅡ」

羽色：黒色(一部茶色)
割合：36.8%(35羽/95羽)
体型：肉用種型(コーチン型)
冠：単冠(全羽数)
耳朶色：赤
脚色：黄(一部黒色)



(図8-2) <57×XSYC♀> (CM♀) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅢ」

羽色：黒色
割合：12.6%(12羽/95羽)
体型：肉用種型(コーチン型)
冠：単冠(全羽数)
耳朶色：白又は赤
脚色：黄(一部黒色)



(図8-3) <57×XSYC♀> (CM♀) 羽色タイプⅢの羽色・外貌の特徴

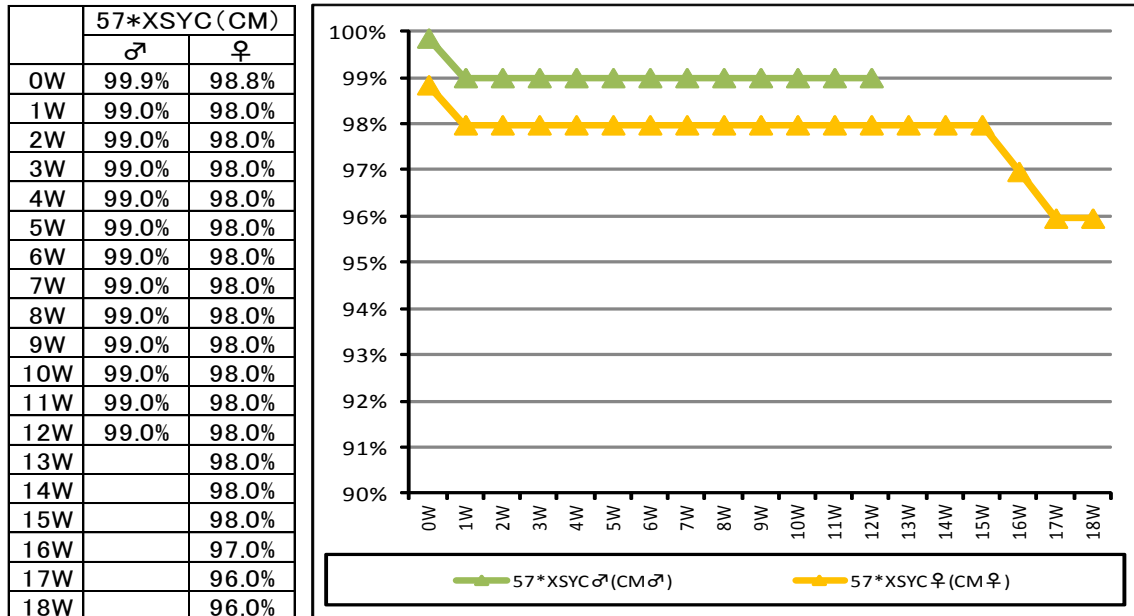


(図 8 - 4) <57×XSYC♀> (CM♀) の飼養状況

(4) 育成率 (表8・図9参照)

育成率が低かった「57*XSYC♀」は、3日齢に弱雛で斃死・淘汰し、その後は、16週齢から腹腔内出血・ツツキが発生したが、特に目立った症状は認められず、12週齢の育成率は96%となった。(※見込出荷日齢の92~98日齢頃では98%程度と推察される。)

なお、「57*XSYC♂」については、18週齢までの育成率が概ね98%以上であり、見込出荷日齢での育成率は99%以上と推察される。



- ※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率であることに留意。
- ※ 57*XSYC♂は0~84日齢(え付~検定終了日)、57*XSYC♀は0~126日齢(え付~検定終了日)の育成率。
- ※ 57*XSYC♂の12Wは84日齢時(1日間)、57*XSYC♀の18Wは126日齢時(1日間)の育成率。
- ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰)は、育成率算出より除外(え付羽数から除外)。

(表8・図9) CMの育成率の推移

(5) へい死・淘汰要因 (表9参照)

へい死・淘汰率が高かった「57×XSYC♀」では、特に全身病(弱雛)に係るもの(4羽中2羽)が多く発生し、その他特に目立った症状はなく、検定終了時までのへい死・淘汰率は3.8%となった。

その他の「57*XSYC♀」では、特に目立った症状はないものの、弱雛、首曲がり、捻転脚、削そうが発生し、検定終了時までのへい死・淘汰率は1~2%となった。

(表9) CMのへい死・淘汰率(日齢/羽数)

症状	57×XSYC(CM)	
	♂	♀
腹腔内出血		1.0% (114/1羽)
悪癖(外傷)		1.0% (117/1羽)
弱雛	1.0% (6/1羽)	1.9% (3/2羽)
計	1.0% (1羽)	3.8% (4羽)

- ※ 「57*XSYC♂」は12W(84日齢:H27/6/1)までのデータとした。
- ※ 「57*XSYC♀」は18W(126日齢:H27/7/13)までのデータとした。
- ※ へい死・淘汰率は、え付羽数から事故死・検査淘汰・誤鑑別を除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率。